

大和 勲

For ISESAKI & GUNMA

～伊勢崎・群馬のために～

令和6年 県政報告書 21



県議会議員 大和 いさお



山本知事から県監査委員の辞令を受ける大和県議

県監査委員を拝命しました。

大和県議は5月24日、山本一太知事から県監査委員に任命されました。県が取り扱った案件を網羅的に学べる貴重な体験となります。自民党県連は、党運営の要となる幹事長就任への条件に県監査委員の経験を求めており、大和県議はキャリアアップの道を一歩一歩、確実に歩んでいます。県議就任から丸9年。こ

れまで県議会の厚生文化、文教警察、産経土木の各常任委員長や各特別委員会の委員を務め、自民党の役職では県連の筆頭幹事長、総務副会長、政務調査会長などに就任しています。議会や党サイドからの見識に加え、今回の大役で県政を「逆方向」から見つめる機会を得ました。「県民ニーズは多様化し、多岐に渡る県の役割、施策をしっかりと学びたい」と、意気込みを語ります。

子育ては「すばらしい」伝える
広瀬小学校に隣接する「あすなろ館児童クラブ」は放課後の小学生を百人余り受け入れています。平日の午後4時過ぎ、同クラブでは、砂あそびや竹馬、鉄棒ボール投げなどに、子どもらが興じていました。大和県議と二階に前庭に入ると、気づいた子どもが駆け寄り先生こんにちはと大きな声をかけてきました。「外遊びに力を入れて

国政でも、地方政治でも少子化対策は最重要課題。若い世代から結婚や子育てへの不安の声を聴くこともありますが、県議も施設長も「前向きに生き、何にでも挑戦する子どもに育ってほしい」と共通の思いを。家庭のニーズが多様ななか、大和県議はお父さんお母さんに、子どもを持って、育てて良かったと心の底から思ってもらえるようお手伝いしたい」と、子育ての意義を強調します。



砂遊びを楽しむ子どもたちに声をかける大和県議。左は六本木施設長

県は昨年5月、前橋・県社会福祉協議会内に「保育士・保育所支援センター」を設置しました。潜在保育士の就業と人手不足の保育所などの希望を適切にマッチングさせるのが狙い。この1年間で二けたの「縁組」が成立しており、センター設置の効果は顕著です。自ら子ども園の運営に携わっている大和県議は5月下旬、マッチングを担うコ



保育士就労を支援！

ーディネーターの皆さんと意見を交換、男性や高齢の保育士の支援が話題となりました。二階は写真右。県連政調会長として一昨年10月、県保協議会と出前政調会を開き、支援センターの設置などを要望されました。県議活動でも折に触れて潜在保育士の就業支援を訴えてきました。センター誕生は大きな一歩です。

県議活動・10年目に突入 元気に頑張っています！
平成27年の県議選初当選から4月で丸9年が過ぎ、10年目に突入しました。ふるさと伊勢崎の発展を常に心がけ、子育て環境の充実、産業の発展、道路や河川の整備、伝統文化の継承など、県民生活の向上に資する施策を提案してきました。大和県議が推進してきた試みのいくつかをピックアップします。

子育ては「すばらしい」伝える

名和 良好な視界から

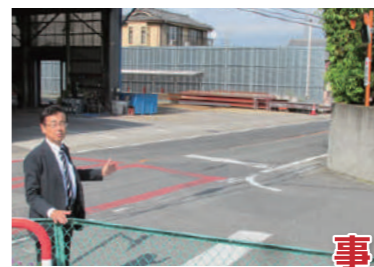
境 雷電神社入り口の県道伊勢崎新田上江田線

三郷 県政報告書20号で掲載



織り機に向かう齋藤さん。後ろは大和県議と渡辺さん

伊勢崎緋の技 後世へ
伝統工芸士・齋藤さんとともに 茂呂
織物のまち、伊勢崎に「機」の音を鳴らし続ける齋藤定夫さん(81)と今泉町は今年1月、県ふるさと伝統工芸士の認定を受けました。伝統的な緋の緋の技法、絹糸を染め、その後の手織りをほしめとして生産工程のすべてを自ら行っています。さんから伝統の技術を学んでいます。そんな後継者から「芸士への認定を求める声が大和県議にも伝わりました。大和県議は「伊勢崎緋を織れる人も少なくなりました。齋藤さんの技術を何としても後世に伝えたい」と伝承に協力するつもりです。齋藤さんの下で緋織りを学ぶ渡辺一郎さん(70)は認定をどこにかうれしかった。齋藤さんの仕事を繋ぐ努力をしたいと喜び、齋藤さん自身は「伝統工芸士をいただいてから周りの目が変わった。感謝の気持ちでいっぱい」と新たな作品に取り組みんでいます。



事故防止は 良好な視界から
中町の県道綿貫篠塚線・変則交差点は交通事故が多発しています。接続する市道からの見通しが構造上確保しづらく、改善が検討されています。写真右上。大和県議は令和4年4月、令和5年9月に地元区長や住民、県警、伊勢崎土木事務所と善後策を協議、角地所有者の協力を仰いで、塀の一部取りりなどを検討しています。茂呂 勢崎深谷線にある交差点の改修も力を入れていきます。南北に走る県道が交差点付近で大きくカーブし、北や南からの交差点先の視界



が狭く、対向車を確認しづらい状況です。写真左上。付近に茂呂小学校があり、歩道もなく、児童生徒の安全確保も急務です。大和県議は県議会一般質問で改修を取り上げ、現在は改修に向けた用地交渉に入っています。境 雷電神社入り口の県道伊勢崎新田上江田線。5月、横断歩道が鮮明になり、対向車を確認しづら機の設定や道路標識の更新が制限されるなか、大和県議は自民党政調会や県議会一般質問で県警に要望。前橋と高崎の3か所で昨年11月、試験的に塗り直しが行われました。大和県議の提案が全県に広がっています。



なりました。写真右上。信号機の設定や道路標識の更新が制限されるなか、大和県議は自民党政調会や県議会一般質問で県警に要望。前橋と高崎の3か所で昨年11月、試験的に塗り直しが行われました。大和県議の提案が全県に広がっています。

境 粕川の「剛志大橋」下流の左岸で、堤防が一部低くなっており、地元住民から溢水を心配する声が上がっています。大和県議は現地を訪れ、自らの「足」で地元の不安を確認し写真上。「剛志大橋に水位監視カメラを設置していただいたが、堤防の改修もぜひ進めたい」と力をこめます。

三郷 県政報告書20号で掲載した通り、三郷地区では奥深津伊勢崎線沿いの樹木について、枝の剪定が昨年12月に終了しました。県道伊勢崎大胡線と北部環状線の交差点について、改良事業が着手できるよう要望を行っています。

豊受 羽黒団地で新車の共益費徴収

伊勢崎市羽黒町の県営団地は、4月から共益費の徴収を金融機関での引き落としに変更しました。徴収業務の担い手不足は県内のどの県営住宅でも共通の悩みで、県住宅供給公社は羽黒団地をモデルケースに位置付けています。同町は約2千人の住民がいます。そのうち約三百人が多国籍の方で、3棟の県営住宅も多くの外国人が生活してお



モデル事業がスタートした羽黒町の県営住宅前で。右から二人目の武井元区長らと事業の成功を期待する大和県議と小暮区長、江原前区長(中)ら

り、住民の高齢化に加えて夫婦が共働きで留守がちな家庭も多く、団地住民から徴収を担う管理人を選ぶのが難しくなっています。深刻な問題について、大和県議は令和3年と5年の県議会一般質問などで取り上げ、今年3月の条例改正につなげました。現区長の小暮明さん(76)、区長経験者の江原満穂さん(76)、武井一雄さん(76)らは「新しい試みが成功し、住民の共生が深まればこの口をそろえ、3人の区長から相談を受けた大和県議も羽黒団地の試みから多くの処方箋が得られると期待しています。

群馬県議会議員 大和 勲 事務所
～伊勢崎・群馬のために～ 大和 勲
伊勢崎市山王町 1142-6 (あすなろ館児童クラブ内)
電話 0270-23-7797 FAX 0270-27-5260
メールアドレス info@isao-y.net
ホームページアドレス https://www.isao-y.net/